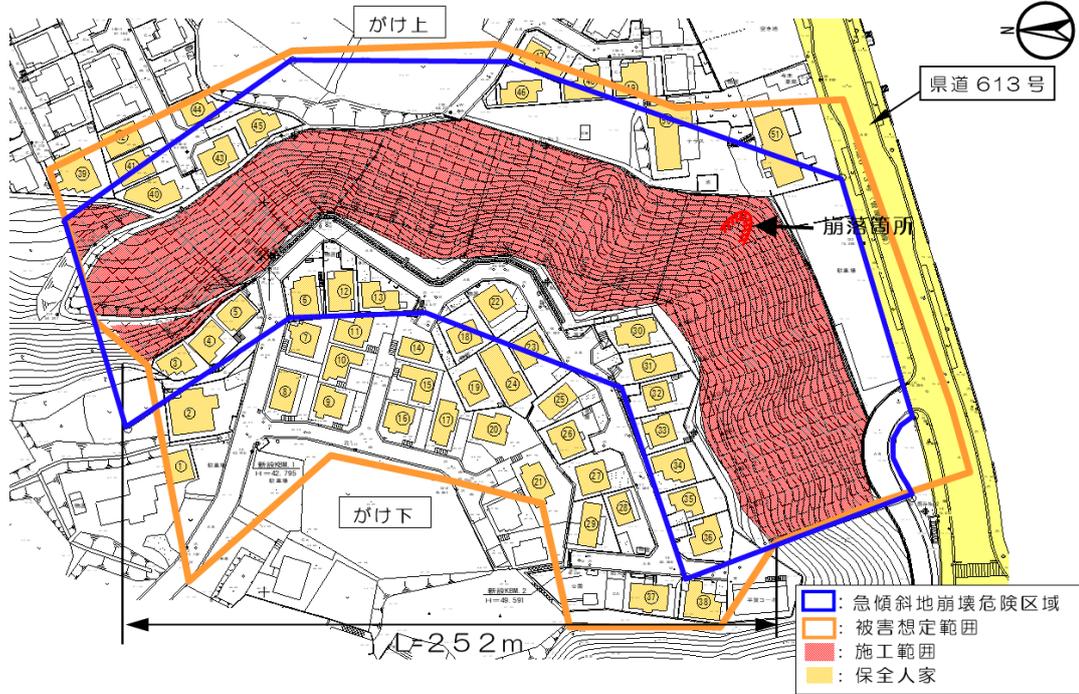


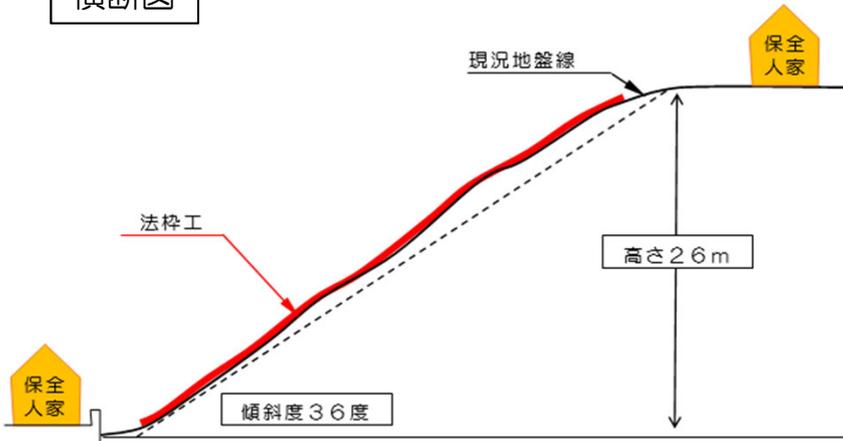


# 事業実施箇所の平面図及び横断図

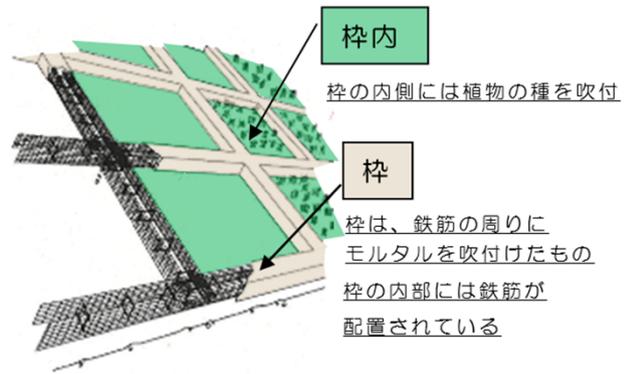
平面図



横断図

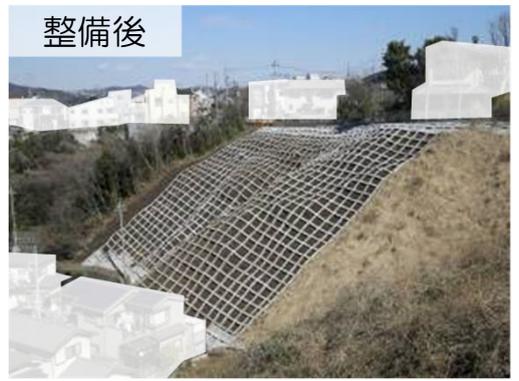


法砕工のイメージ図



## 2 プロジェクトの効果

- がけ崩れの発生を防止することにより、人命や財産の保全できる。
- 県道、市道の交通インフラ施設への被害を防ぐ効果がある。
- 整備に伴い、がけ崩れに対する住民の安心感が向上する。
- 事業完了後、令和元年の房総半島台風や東日本台風による大雨などを含めて、これまでにがけ崩れは発生していないことから、対策施設として設置した法砕工等の機能が発揮されており、住民の生命を保全することができている。



## 関係者等の意見

- 「近年、全国で豪雨災害が多発している中、住民の方々において、がけ崩れ災害の不安が払拭された効果は、非常に大きいと感じる。」(秦野市)
- 「工事前は、雨が降るたびに心配だったが、今は何も起きず安心している。」(地域住民)

## プロジェクトの投資効果の分析

- 急傾斜地崩壊防止施設を整備することによって、斜面の崩壊により生じる人的被害や直接的な資産被害を軽減しており、それにより生じる可処分所得の増加や精神的な安心感の向上効果等の便益を算定し、急傾斜地崩壊対策事業の費用便益分析を行った。この結果、本プロジェクトのB/Cは11.9となった。
- プロジェクトの投資効果の分析

$$\begin{aligned} \text{費用便益比(B/C)} &= \frac{\text{耐用期間(50年)の被害軽減期待額}}{\text{建設費}} \\ &= \frac{52.9\text{億円}}{4.5\text{億円}} = 11.9 \end{aligned}$$

$$\text{経済的内部収益率(EIRR)} = 23.1\%$$

※ 費用便益比の算定における建設～耐用期間の総費用、総便益については、物価の変動や利率などによる社会的な貨幣価値の年変動を、社会的割引率4%として考慮(現在価値化)し、算定している。

## 3 プロジェクト実施にあたっての特記事項

- 急傾斜事業は、緑が少なくなるとの懸念から、周辺住民に反対されることがあるが、当該区域では周辺景観と調和させるため、法枠工の枠内を緑化することで、周辺住民の理解を得る配慮を行った。

## 4 プロジェクトによって得られたレッスン

- 当該区域は、保全人家が多く、施工箇所へのアクセス道路が狭く、作業ヤードの確保や工事車両による生活道路への影響などが問題となるため、近隣住民に対して事業着手時や工事施工前の説明会などを丁寧に行った。その結果、駐車場や畑の借地、工事車両の通行など、近隣住民からの協力を得られたことで、事業が遅延することなく工事を進めることができたことは、今後のレッスンとなった。



法上の施工ヤード



法下(市道)のプラント



工事施工前の説明会

## 5 考察

- 急傾斜地崩壊対策事業は、がけ崩れ災害から影響範囲の人たちの生命を守ることを目的としていることから、がけに面した住民だけでなく、周辺の方々へ丁寧に説明することで、防災意識を持っていただき、工事への理解、協力を得られたことは、今後の類似事業に役立つ事例となった。